

## (8) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)。

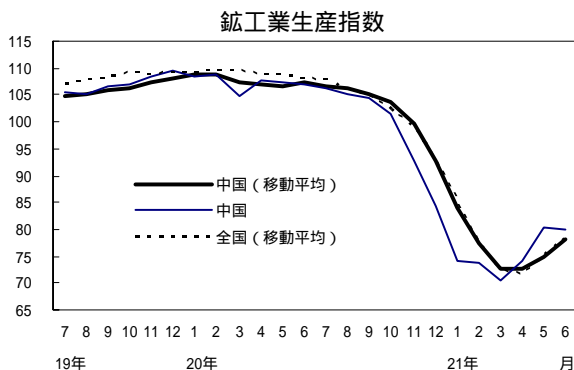
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	悪化	持ち直しの動き	
鉱工業生産	下げ止まりの兆し	持ち直している	
個人消費	弱い動き	持ち直しの動き	
住宅建設	減少	大幅に減少	
雇用情勢	極めて急速に悪化	急速に悪化	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は持ち直している。

鉄鋼は、自動車や家電向けを中心に増加している。化学は、定期修理の影響により一部の品目で生産水準が低下しているものの、スチレンモノマー、ポリスチレン等を中心に増加している。輸送機械は、新型車の発売や欧州での経済対策の効果により、小型自動車等で輸出向け生産が上向いたことなどから、上昇している。一般機械は、印刷機械や海外向けの建設機械の生産が低調だったことから、減少している。電子部品・デバイスは、携帯電話向けのモス型半導体集積回路を中心に上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

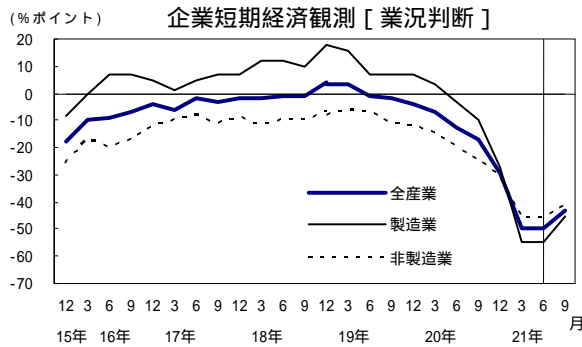
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
鉄鋼	16.5	31.6	3.6	10.3	17.0
化学	16.1	9.0	14.5	14.6	0.5
輸送機械	14.8	35.3	20.6	19.8	24.6
一般機械	10.7	19.3	12.5	11.9	8.1
電子部品・デバイス	7.3	26.5	16.6	13.7	-
鉱工業	100.0	21.6	7.1	5.7	2.3

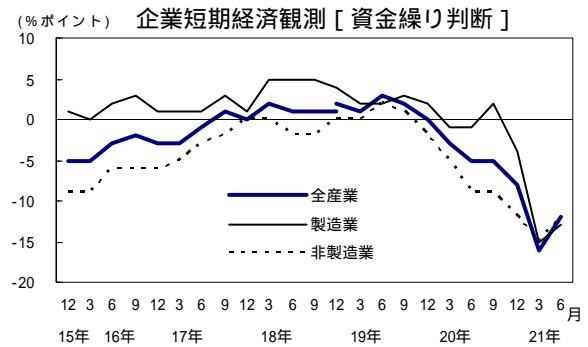
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4~6月期は速報値。  
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなり、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

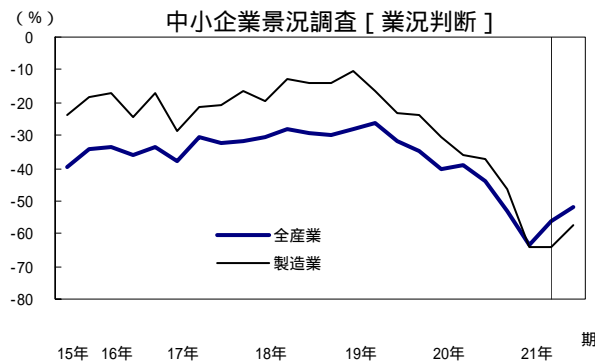
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

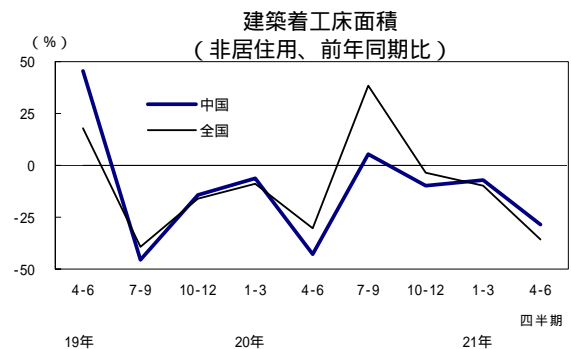
「エレクトロニクス関係の受注は、ここにきて上向いてきているものの、昨年上期に比べれば6～7割程度の水準である。自動車関係の受注は、低迷が続いている(鉄鋼業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	4.8( 0.9)	21.2( 9.4)
製造業	12.7( 0.6)	29.4( 13.5)
非製造業	8.0( 1.4)	10.4( 4.4)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

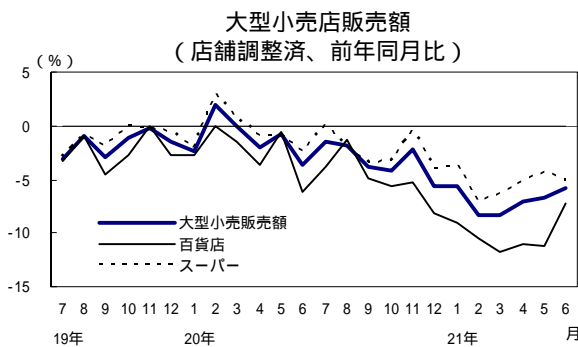
### (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

#### 大型小売店販売額

百貨店は、4月は、下取りセールでバッグなどの身の回り品に動きがみられたものの、単価の下落により衣料品が低調だったことから、前年を下回った。5月は、海外高級ブランドのアクセサリなどの身の回り品や衣料品が低調だったことから、前年を下回った。6月は、夏のクリアランスセールの前倒しや、中元の早期受注により、食料品や衣料品の動きが改善したものの、高額商品が低調だったことなどから、全体としては前年を下回った。中国四国百貨店協会によると、7月の中国地区の売上高は、前年同月比で11.7%減となっている。スーパーは、飲食料品はおおむね横ばいだったものの、全般的に値下げの動きが拡大するとともに、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(6月)[家計動向関連(現状)]

「ボーナス支給額の減少等で、消費者の節約意識が強い。プレミアム付き商品券が発行され出回っているが、プラスアルファには至っていないように思われる。得意先の飲食店もやや低調である(一般小売店[酒店])など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

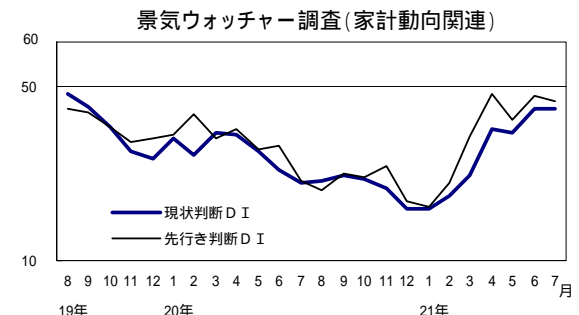
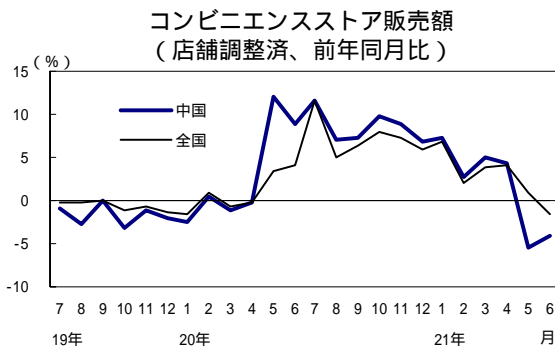


	(前年同月比、%)			
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	2.3	4.1	7.4	6.6
百貨店	3.4	6.5	10.4	9.9
スーパー	1.7	2.7	5.7	4.8
乗用車	1.5	11.7	20.0	12.9
景気ウォッチャー	30.1	22.7	25.3	40.2

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

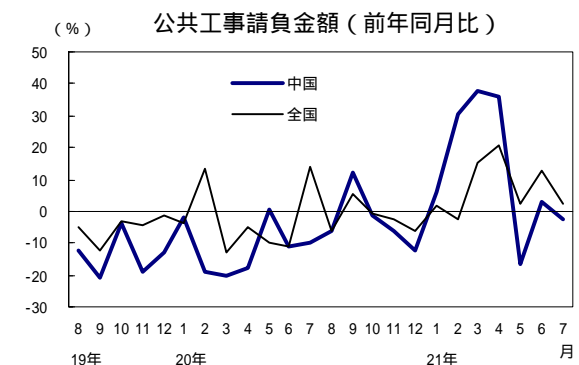
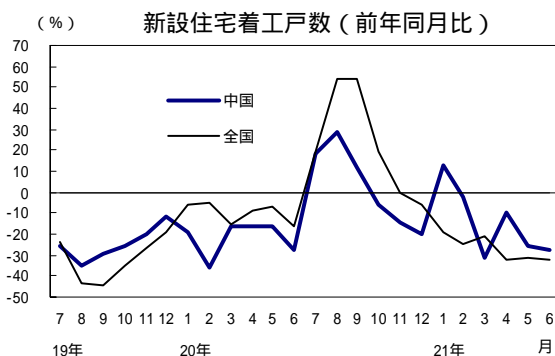
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



### (2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

### (3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

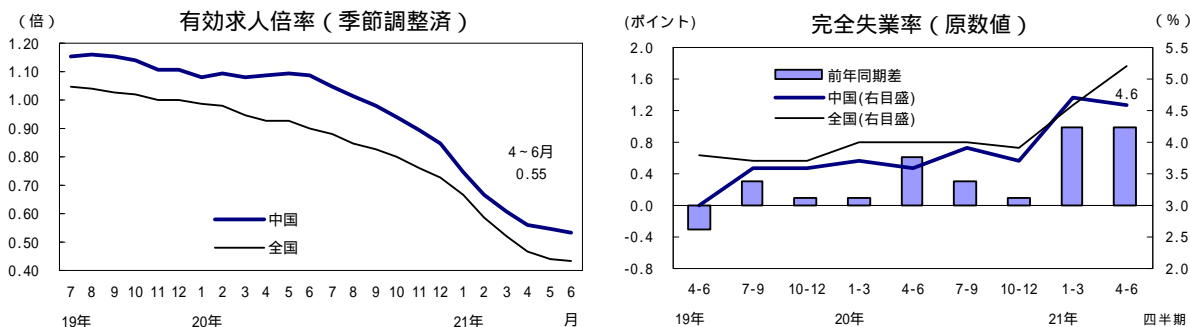


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

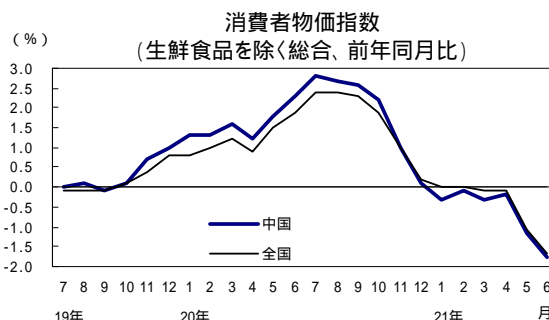
「製造業では生産量が上がってきており、作業職の派遣依頼が若干増えてきてはいるが、生産量の上昇も既存従業員でまかなえる範囲のため、派遣労働者の大幅な活用増には至っていない(人材派遣会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	189	199	178	147	47
(前年比)	31.3	27.6	10.6	26.1	31.9
負債総額	3,289	507	951	744	65
(前年比)	266.8	18.8	81.5	12.3	82.1



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (6月)

・来場者数が前年比110~120%で推移している。E T C割引の効果か、週末の来場者数が特に多い(テーマパーク)。

<先行き> (6月)

・Vの字というわけにはいかないが、夏に向けて受注が増え始めている。ただし9月より先は不透明である(輸送用機械器具製造業)。

